心の輪を広げる体験作文　小学生部門　◆佳作

「人は人、自分は自分」

相模原市立双葉小学校　四年　深澤（ふかざわ）　心南（こな）

私の学校には、様々なクラスがあります。たくさんのなかまと先生一人がいるクラス、教室に学年が交ざり、たくさんの先生がいるクラス、けががないように工夫されていて、車いすなどですごすクラスがあります。学習内容によって合流しながらすごしています。

先生の手伝いをたくさん必要としている私のなかまは、目には見えないけれど、苦手に思うことがあります。たとえば、人よりも大きな音が苦手だったり、すわって授業を聞くことが苦手だったりします。でも、私にも苦手なことはあります。そんなときはクラスのなかまや先生に助けてもらったことで心がうれしかったので、苦手は自分だけでどうにかしようとしないで、こまったら助けてもらってもよいことを知りました。だから私もなかまがこまっていたら助けてあげたいと思うようになりました。

私がこまっているなかまを助けるときに心がけていることは、力をかすのではなく、自分でできるようにはげましたり、いっしょによろこんだりすることです。できるようになることがふえると、チャレンジする気持ちになれると思うからです。

苦手だと思うことの数や大きさは様々ですが、だれでも苦手なことがあると思うので、私は、「このこだけちがう」ということがないようにしたいと思いました。

ある日、一しょに係活どうをしていると、なかまの一人がどこかに行ってしまって目的地にたどりつけずさがし回るということがありました。心あたりをさがしたり、心配したのですが、なかまのことを理かいして好きな場所などをおぼえていたので、さがすときに助かりました。なかまの一人は、大好きなすみの方でブロックをして遊んでいました。「いっしょに行こう」と声をかけるとすぐに立ち上がってくれたので係活どうができました。声かけだけではなく、歩く順番の工夫が大切だと思いました。いっしょに活どうできてよかったと思います。